2012（平成24）年
6月1日
第133号
毎月発行
毎月第４月曜日は休館日です

西東京市 公民館だより

編　集
公民館だより編集室
発　行
西東京市公民館

柳沢公民館　柳沢1-15-1　☎042・464・8211　kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館　南町5-6-11　☎042・461・1170　tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館　芝久保町5-4-48　☎042・461・9825　shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp
谷戸公民館　谷戸町1-17-2　☎042・421・3855　yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館　ひばりが丘2-3-4　☎042・424・3011　hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館　東町3-14-30　☎042・421・1125　ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

第２弾 西東京市にゆかりのある文化・芸術作品

西東京市にゆかりのある文化・芸術作品をご紹介したのが一昨年の10月号。その後、市民の方からも情報をいただきました。今回は文学を中心に第2弾のご紹介です。

◆**中野順一「クロス・ゲーム」**仮想空間がテーマでひばりヶ丘駅南口のマンションの一室が大きな意味を持ちます。西武池袋線もたびたび登場します。

◆**「29歳のクリスマス（鎌田敏夫脚本）」**1994年に放送されたテレビドラマ。恋愛に仕事に悩みを抱えながら頑張る主人公典子の実家は旧田無市にあります。ドラマでも実家の両親を訪れる場面が登場します。

◆**茨木のり子「雀」**詩人茨木のり子は長らく西東京市に住んでいました。作品「雀」では「わが家の小さな庭にさえずるのは疎開雀か（中略）保谷の里に飛ぶ鳥よ」と保谷の地名が出てきます。

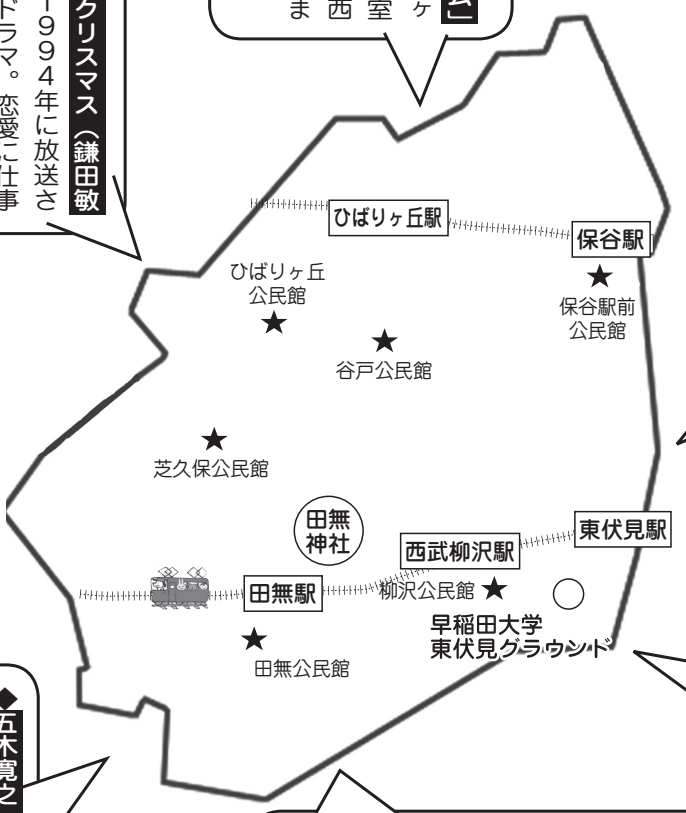
◆**黒木亮「冬の喝采」**箱根駅伝を目指して練習を重ねる早稲田大学競争部員の姿が描かれます。東伏見のグラウンド、駅前の床屋などが登場します。

◆**辻仁成「満員電車の恋」**青春期を振り返ったエッセイ。上京し、田無駅から西武新宿線の通勤快速に乗って予備校通いをする僕。いつも見かける女性に恋をします。そして・・・

◆村上龍は一時田無神社の近くのアパートに住んでいました。父親、村上新一郎氏のエッセイ「龍がのぼるとき」に、その当時のことが描かれた箇所があります。また本人の自伝的要素が強い『村上龍　映画小説集』より「狼は天使の匂い」の中に、〝美術大学にもぐり込み、西武新宿線沿線の普通の街に一人で住み始めた〟と田無のアパートでの一人暮らしのことと思われる描写があります。

◆**五木寛之『青春の門　第2部立志篇（後に自立篇）』**主人公信介は、九州・筑豊から上京して大学に通いますが、ひょんなことから自称ボクシングコーチの東伏見の家で居候生活を始めます。心中未遂事件に巻き込まれたり、様々な経験をします。

◆五木寛之は若かりし頃、田無神社の床下で寝起きしていた時期がありました。エッセイや『黄金時代』という作品にその経験が描かれています。



ここがあの場面の舞台だろうか、と想像しながら街を歩くのも一興でしょう。
まだまだ他にも西東京市が登場する作品はあるようです。

＊みなさんからの「西東京市にゆかりのある作品」の情報を引き続きお待ちしています。公民館までお寄せください。

散策・探訪・発掘

わが街をもっと知りたくて

歴史を辿り～今を知る写真歴５０年

昭和33年から旧田無、西東京市に在住しているカメラ好きの山本昭六さん（80歳）は18年間のサラリーマン生活を経て自営業を営みながら「地元に永く住み続け、出来ることに何があるのだろうか……自分には写真しかないので」と写真を残すことにしました。

当初は田無駅舎・青梅街道、街並み等を撮り始め、現在は多摩写友会に所属しています。毎年3月のお彼岸頃に記録写真として、街のバス通り、駅周辺を撮りながら、時には東大農場、高尾山など近隣地区に出向き自然風景も撮り続けています。

記録写真は歴史証人

「1枚の写真は多少ピンボケでも、1冊の本より雄弁です。記録写真は時の証拠として大変貴重なものです」

多摩写友会結成10周年の記念式典でお招きした田無警察署長のこのひと言に励まされ、50年近くも記録写真を撮り続けてきました。

駅前商店街はいつの時代でも記録の宝庫です。「生活記録を残すことは新しい生活を産み出す原点でもあり、50年後…100年後にも通用する写真を撮りたい」と山本さんは言います。

「記録写真は歴史そのものであり、その歴史から見えてくる街の環境の変化に適応して生活している市民の姿です」

その記録写真への挑戦の原動力は好奇心と地元への愛着心であることが伝わりました。

山本昭六さん

▲昭和 40 年頃の青梅街道総持寺付近

▲昭和 34 年西武電鉄田無駅

目の不自由な方に声の「公民館だより」をお届けしています　谷戸図書館（☎042－421－4545）へお問い合わせを